

株式会社グランブルー
DX戦略

2024年11月5日
株式会社グランブルー
代表取締役 落合 生嗣

DX取組宣言

私たち株式会社グランブルーは、1998年に「感動できる仕事がしたい」という思いからスタートしました。ブライダル（婚礼）、メディア（映像）、デリバリー（贈り物）の3つの部門で花やグリーンを含む様々なものを駆使し、輝きを生み出してきました。

私たちが目指す感動は、若いころ、部活や学園祭で夢中になり、喜び合い、悔しがり、仲間と抱き合い、肩をたたきあって涙するほどの感動、人のこころの動きなのです。

振り返ってみると、お客様のお声に耳を傾け、「何を求めておられるのか？、何を期待されているのか？」という本質を見極め、持っているクリエイティブな力でお客様の期待を超え、一步先行く感動を提供し続けてきたように思います。

平成を経て、令和の時代となりました。思いがけない新型コロナウイルスによる外出制限、ウクライナ危機、円安、資材高騰、人手不足、地球温暖化への対応、インターネット販売の伸び、デジタル技術の進展等、私たちを取り巻く外部環境は先の見えない状況が続いています。

特に、私たちの事業領域であるブライダル、メディア、デリバリーの分野は、お客様の価値観の変化により求められるモノやサービスが変わってきています。このような時代にあっては、これまで以上に時代に敏感で、臨機応変で、俊敏で、緻密で、心も体も丈夫である必要があります。それを受け止め体現する従業員が、物心両面で幸せであることが新たな時代の感動創造企業には必須です。

人手不足が常態化しているなかで、時代に俊敏に対応するためには、AIをはじめとしたデジタル技術やデータ活用が鍵になると思います。私たちは「リアル×デジタルで感動を創造」し、これまでよりもクリエイティブで、高いクオリティで、スピーディであるためにDXやGX※に取り組めます。簡単なチャレンジではないと思いますが、緻密に、かつ大胆に、自分たちの限界に挑戦することで、より大きな喜びを得たいと思っています。

※DX=デジタル・トランスフォーメーション（デジタル技術による変革）

GX=グリーン・トランスフォーメーション（環境に配慮した変革）

株式会社グランブルー
代表取締役 落合生嗣

経営理念・経営ビジョン

<経営理念>

グランブルーは「感動創造企業」である。

感動できる仕事がしたい。感動を共有する。感動を共有できる。

喜び合い、悔しがり、仲間と抱き合い、肩をたたき合って涙するほどの感動を得たい。

その感動を回りに伝播させるほどのエネルギーあふれる企業でありたい。

<経営ビジョン>

私たちは、ブライダル、メディア、デリバリー業界で最もクリエイティブで、高いクオリティで、スピーディであるために、DX（デジタル技術による変革）やGX（環境に配慮した変革）によって、緻密に、かつ大胆に自分たちの限界に挑戦し続け、お客様、従業員及び社会に「幸せと感動をお届けする笑顔あふれる会社」になります。

DX戦略

私たちグランブルーは、デジタル技術やデータを活用し、経営ビジョンやビジネスモデルを実現をするために以下のようなDXを推進していきます。

戦略①GXプロデュース事業の推進

地域資源（ヒト・モノ・コト）の持つ潜在的な価値を発見し、ニーズのある人や場所にお届けするGXプロデュース事業※を開始し、地域と都会をつなぐハブになり地域活性化に貢献します。

戦略②ECサイトを活用した循環型ビジネスの展開

舞台やイベントで利用した備品や資材に新しい価値を加え、感動をお届けする循環型ビジネスをECサイトで展開します。また、データ活用によるコアファン向けのスペシャルオーダーに対応します。

戦略③社内業務の改善や情報の一元管理による生産性向上

社内のバックヤード（労務、財務、人事等）のデジタル化を進め社内業務を改善します。

各自が保有するノウハウやコンテンツをDBで一元管理し、提案力の質、スピードを向上します。

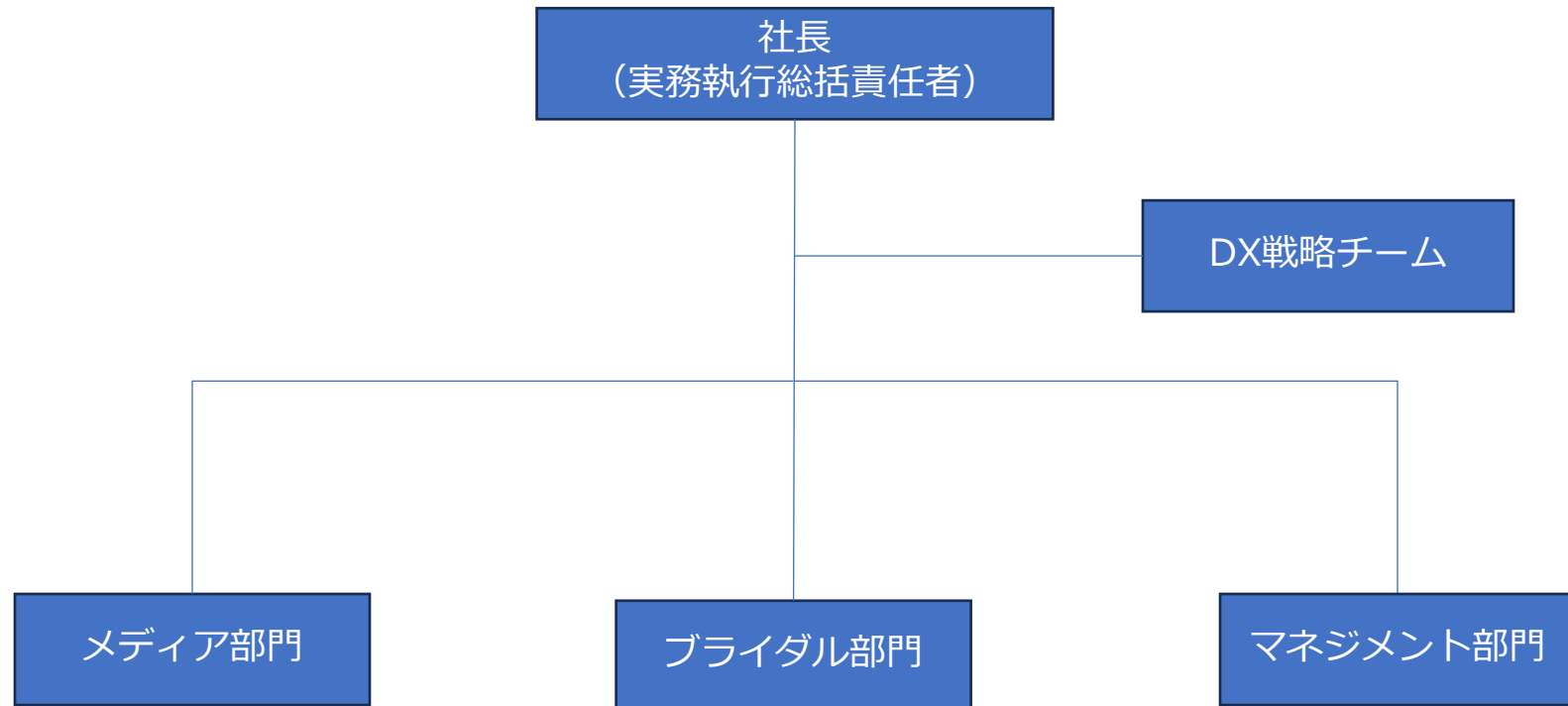
戦略④デジタル人材の育成

グランブルーで習得すべき「育てるぞリスト」を見直し、業務遂行に必要な項目に加えて、デジタル技術やデータ活用、セキュリティ対応ができる人材を育成します。

※ GXプロデュース事業は、地域にある樹木、草花、農作物、人材、文化・風土まで含めた地域資源を弊社がこれまで培ってきたノウハウや知見やデジタル技術を駆使して新しい味付けをすることによってESG（環境・社会・ガバナンス）的な付加価値をつけ、例えば都心のオフィスや脱炭素に取り組む企業等に提供することで、相互に価値創造作用が起きるような企画提案・実現支援を行うビジネスモデルのことを言います。人口減少が進む地方の農山漁村では地域の賑わいを創ることは必須の生き残り策です。

DX推進体制・デジタル人材育成

株式会社グループは、社長（実務執行総括責任者）の直下に「DX戦略チーム」を設置し、定期的なミーティングを行いDX推進します。また、教育計画に基づいてデジタル人材育成を行います。



デジタル環境整備

株式会社グランブルーは、DX推進のために毎年売上の0.5%を投資します。これまで利用している既存システムを見直しながら、活用を促進していきます。また、新規システムの導入やネットワークを構築して、会社全体のDXを推進していきます。

<既存システム>

- ・ 会計システム、販売システム、給与システム
- ・ 共有サーバー及びネットワーク、バックアップ体制

<新規システム>

- ・ データ情報共有システム（一元管理）
- ・ ECサイトの再構築
- ・ AIを活用したデータ分析、生成AIを利用した提案

目標値（KPI）

DX戦略の達成状況を測る指標として下記を定めます。実行計画を立案したうえで、取り組みを行い、各部署ごとに目標値の達成状況を月1度評価を行いながら目標達成できるようPDCAサイクルを回していきます。

DX戦略	取り組み内容	時期	目標値
戦略① GXプロデュース事業の推進	地域資源（ヒト・モノ・コト）の持つ潜在的な価値を発見し、ニーズのある人や場所にお届けするGXプロデュース事業の開始	2026年までに	GXプロデュース案件の実施 10件/年
戦略② ECサイトを活用した循環型ビジネスの展開	<ul style="list-style-type: none"> ■ イベントや舞台で利用した資材などに付加価値をつける循環型ビジネスのしくみ創り ■ データ活用によるコアファン向けのスペシャルオーダーメイドをECで対応 	2026年までに	循環型ビジネスのしくみ創りとECサイトの構築と販売開始
戦略③ 社内業務の改善や情報の一元管理による生産性向上	■ 社内バックヤードのデジタル化の推進	2026年までに	社内バックヤードのデジタル化 80%を達成する。
	■ 各自が保有するノウハウやデータを一元管理し、情報共有できる仕組みを構築	2026年までに	ノウハウの一元管理及び情報共有のしくみを完了する
戦略④デジタル人材の育成	■ グランブルー「育てるぞリスト」を作成し、業務に精通したデジタル人材を育成	2026年までに	ITパスポート試験の合格者（デジタル人材）を5名育成 グランブルー「育てるぞリスト」の作成及び周知 年2回実施

社長（実務執行総括責任者）メッセージ

私たち株式会社グランブルーは「感動創造企業である」ことをめざしています。

花やグリーンを含む様々なものを駆使し、最もクリエイティブで、高いクオリティで、スピーディであるために、どのようにデジタル技術やデータを活用し、価値創造や変革を推進していくかの道しるべとしてDX戦略書をまとめました。

従業員の皆様に、日々の仕事の中で、お客様との対話の中で、社内でのミーティングの中で様々な判断をする際の「考え方の基軸」として利用してほしいと思っています。

お客様に本物の感動をお届けするためには、社内のメンバーの豊かな感性や、社会や環境ニーズを理解する広い視野、価値創造に向けた柔軟な対応力が必要です。そのために、従業員一人一人がDXの取組を自分事としてとらえ、新しいことに前向きに挑戦し、感動をお届けできるような仕事を通して、わくわくする未来を切り開くことができるスキルとマインドの醸成を図っていきます。

グランブルーは、DX（デジタル技術による変革）やGX（環境に配慮した変革）によって、緻密に、かつ大胆に自分たちの限界に挑戦し続け、お客様、従業員及び社会に「幸せと感動をお届けする笑顔あふれる会社」になります。グランブルーのDXにご期待ください。

2024年11月5日

株式会社グランブルー

代表取締役 落合生嗣